



▲十二湖33湖めぐりの様子

外国人個人観光客向けに二次交通システム構築のための実証実験を行つ計画を進めている。
青森空港や新青森駅をゲートウェイとし、西海岸への専用バス運

2018年の観光入込客数は、延べ人数で95万5751人。宿泊客は、実人数で県内が1万1782人、県外が6万6770人、合わせて7万8552人となっている。

季節別割合では、春（4月



ちなみにも、観光消費額等の
数値については、観光庁の「観
光入込統計」に関する「通算準
を基に、当町が実施した調査
結果をベースとして、宿泊費・
飲食費・娯楽費・買物費等に
分配算出したものである。

ユージアムでは、毎年「十二湖33湖めぐり」と題し、新緑の春と紅葉の秋にそれぞれ日帰りのハイキングイベントを主催し、毎回定員を満たす人気を誇っている。

ご提案の「ツアーア」についてことに関しては、実施機関はもとより、受入対応の宿泊施設、送迎等の交通事業者、そ

《今議員》
《町長》

してなによりツアーハウスや旅行会社との協議が必要なため、関係機関と共に研究していく所存だ。

また、「防震コンテスト」の実施についても、情報発信として非常に有効性の高い事業コンテストであり、相乗効果も十分に得られると考えている。

引き続き、多様なメディアを活用した情報発信に努め、観光振興につなげていきたい。

行を2町が共同で行い、冬季間の移動を円滑にすることでの外国人観光客の増客を図り、持続的な利用環境の整備に取り組むものである。

さらに、町単独事業として平成27年度に実施し宿泊客数増加の効果が顕著であった、冬限定「旅クーポン」を発行し、冬の誘客喚起をしたい。

(6月)が23パーセント、夏(7月～9月)が41パーセント、秋(10月～12月)が24パーセント、冬(1月～3月)が12パーセントである。

②観光消費額は。

《今議員》

《町長》

2018年の観光消費総額は、49億3286万6000円で、そのうち、宿泊費は7億7000万円、特産品やお土産品については2億4640

● 深浦町の総合計画に対する成果と課題、 今後の展望、取組について

答弁：深浦町第二次総合計画で公約に掲げた各施策は、着実に実施しているものと考えている。引き続き、総合計画の最終年度まで真摯に取り組んでいきたい。



今 勝吉議員

深浦町第一次総合計画が策定され4年が経過し、地域内経済環境の活性化による雇用の創出、若者や女性の活躍、県外流出を抑制する町づくりの推進など様々な環境整備を行つたが、計画目標と照らして検証の結果、現時点における雇用の創出や出生率、転入・転出状況はどうなのか。

今年度も含め、最終年度までの今後5年間ににおける課題と展望、取組をお示し願いたい。

サー・モン中間養殖場4人、深浦まるごと市場のオープソード人など、民間事業者の起業・創業等により、一定程度の雇用創出につながっているものと考えており、今後の事業展開にも期待を寄せている。

また、当町における2011年12月31日時点での出生率（千人当たりの赤ちゃんの数）は、2・7パーセント、青森県は6・2パーセント、全国では7・4パーセントとなつていて、転入・転出者状況についても、平成30年度末で転入者は174人、転出者は246人となつていて、

深浦町第二次総合計画で公約に掲げた各施策は、着実に実施しているものと考えており、引き続き、農林水産業の振興、子育て支援の更なる充実、地域医療の充実と高齢者の生きがい活動支援、交通体系の整備推進、財政の健全化等に取り組んでいきたい。

また、平成31年2月に実施した「まちづくり住民ワーキング

観光振興の重要性と 意識改革について

観光振興の重要性と 意識改革について

パーセント(%)とは
1000分の1を1とする
単位。記号は%
(パー)
(ル)

「一」で、町民の皆様から町の施策に対する様々な意見をいただいた。
これらの意見の中から、新たなまちづくりに関するアイデア等、町民が望んでいる施策の実現に向け十分検討し、総合計画におけるおおむねの将来像の実現に着実に取り組む考え方である。



「行合崎」の海岸漂着物 の散考について

問題解決に向け、自治体・企業・個人が連携協働し、漂着物撤去に向け早急に取り組むべきと思うが、町の考えは、また、五能線を走る車窓から見える海浜地の漂着物対策は。

海岸漂着物撤去については、青森県海岸漂着物等地域対策推進事業を活用し、5月から12月まで、町臨時職員2名が町内全域の海岸漂着物の監視及び回収を実施し、大規模な漂着物については、業者に委託し回収・処理している。毎年4月には町民のご協力をいただきて行っている沿道